



気候の良い日がつづき、戸外あそびを楽しんでいます。気温が高い日は、自然と水あそびがはじまり、水の冷たさ、気持ちよさを感じています。水を砂場まで運んでいくと“どろあそび”になります。砂と水を混ぜるとどうなる？実験をしているかのように真剣な表情の子…。茶色い水をジュースなどに見立てて、ごっこあそびをする子。子どもたちのあそびは、無限に広がります。お洋服や靴が泥で汚れてしまうこともあります。子どもたちが存分に遊んだ証拠です♪お洗濯大変かと思いますが、ご協力よろしく願いいたします。

それって「甘やかし」？

子どもの成長には、「甘え」が大切。でも、どこまで甘やかせていいのでしょうか？誰もが悩む問題です。

「甘え」は自立を育むもの

子どもは自分の信頼できる人に「甘え」を出すものです。保育園でできるのに、家庭では甘えて「やって」と言うのは、親を信頼しているからです。園は会社です。親も職場という社会では家庭とは違い、なかなか「甘え」は出しにくいのですよね。子どもは園という社会でよく頑張っているのです。だから、家庭で親にわざわざできるよことをやってもらうなど、「甘える」姿がでてくるのです。

「甘える」ことができた子は、次に自分でやろうという自立に向かうものです。いっぱい甘えた後は、何かに夢中で取り組んでいることが多いです。

時にはNOという「支援的なかわり」も大切

スーパーで「買って、買って」と泣き叫ぶ子どもに対して、その気持ちをしっかりと受け止めたうえで、「お家に帰って、ポップコーン作ろうか」と言って、買わずにお店から出るというかわりです。それで、気持ちが切り替えられたら、それは立派なことです。

親をたたくことがあった時には、「それは痛いからやめてほしい」と真剣にNOと伝えることも必要です。親であってもたたかれることは嫌なことです。ストレスや嫌な思いの表現であることもあるでしょう。その子の思いを受け止めてあげつつ、「今度は言葉で言ってね」と伝えましょう。

非認知能力を育てる「しつけない」しつけのレシピ

大豆生田千夏・大豆生田啓友

玄関も子どもたちにとっては、たのしいあそび場!!



玄関前にある図書館の大型絵本をめくり、ゆったり読書の時間…。私がみていた限り10回以上、終わっては最初からを何度も繰り返し楽しんでいました。

扇風機を見つけ、網の穴が気になり恐る恐る指をズボ!

「はっ!」とした表情がなんとも言えません◎

だんだんと勢いがよくなり、指が入る楽しさを満喫していました。



※扇風機のコンセントは抜いています!

やりたいことを満喫した子どもたちは、自然と保育室へと戻るのですた〜◎